第2学年数学科指導略案

指導者

１　日　時

２　場　所

３　単元名　確　率

４　本時の学習

1. 主　題　確率の求め方
2. ねらい　○　実験と樹形図を利用して、確率を求めることができる。

　　　　○　なぜそうなるのかを、根拠をもとにわかりやすく伝え合うことができる。

1. 準備物　ワークシート、確率実験器、解答ボード
2. 展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学　習　活　動 | 時間  (形態) | ○　指導上の工夫　　◎　評価(評価方法) |
| １　本時の課題を知る。  袋の中に、当たりくじ(赤玉)が1本と、はずれくじ(白玉)が２本入っている。このくじを3人が順番にひくとき、何番目にくじをひく人が当たりやすいだろうか。  ２　何番目にひくのが当たりやすいか予想する。  ３　検証方法を考える。   1. 実験をする。 2. 樹形図等を使って場合分けをする。   ４　班で説明し合い、意見をまとめる。  ５　各班の意見を発表する。  ６　本時のまとめをする。 | ５分  (一斉)  ２分  (一斉)  ３分  (一斉)  10分  (班)  ７分  (個別)  ５分  (班)  ８分  (班)  ８分  (班)  ２分  (一斉) | ○　宝くじや福引き、席替えなど、くじ引きの経験を通して興味・関心を高める。  ○　それぞれに理由を聞く。  ○　そのことを確かめるにはどうすればいいのか聞く。  実験、樹形図  ○　4人(3人)班になり、30回程度実験し、その結果をワークシートに記録する。  ◎　実験結果を適切にまとめることができたか。  ○　くじに記号や番号をつけて、そのうち一つを当たりくじとして樹形図をつくり、確率が同じになることを確認する。  ◎　確率を求めることができたか。  ○　後から引いても最初にひいても同じ確率になることが分かった人は、分からない人に、分からない人はおかしいと思う理由を分かった人に説明し合う。  ○　どのように説明すれば、わかりやすく伝えることができるかを班でまとめる。  ○　発表の後、ほかの班の生徒何人かに疑問に思う点やよかった点を言ってもらう。  ◎　根拠をもとにわかりやすく説明することができたか。  ◎　説明が十分かどうか、聞き手の側からも判断し、相手に伝えることができたか。  ○　くじを先にひくか後に引くかでは確率は同じになることから、くじ引きは物事を公平に決めるのに有効な手段であることを確認する。 |

(5) 研究の視点

|  |  |
| --- | --- |
| 評価の視点 | 評価 |
| ○　授業の構成は、生徒の表現力の育成に効果的であったか。 | ４　　３　　２　　１ |
| ○　数学的な表現を用いること  言葉や数、式、グラフを適切に用いて、思考の仮定や判断の根拠などを数学的に表現することができたか。 | ４　　３　　２　　１ |
| ○　論理的に説明すること  根拠をもとに、筋道を立てて説明することができていたか。 | ４　　３　　２　　１ |
| ○　説明し伝え合うこと  説明が十分かどうか、聞き手の側からも判断し、相手に伝えることができていたか。 | ４　　３　　２　　１ |
| ［自由記述欄］  ・生徒理解力・教材解釈力・授業構成力・授業実践力に関すること | |